

# 会 報

## 栃木県中学校長会

### 昭和49年度 栃木県中学校長会 運営方針ならびに重点目標

#### ○ 運営方針

会則第3条 本会の目的に則り、教育諸団体との連繋を密にし、本県中学校教育の振興充実を図るとともに、いっそう義務教育尊重の気風を高揚し、もって教育栃木の建設に邁進する。

そのために

1. 会員の意志の統一を図る。
2. 組織的な研修活動を活発にし目的達成に努める。
3. 教育研修諸団体との連絡を密にして、活動を展開する。

#### ○ 重点目標

1. 会員の研修活動の推進
  - (1) 専門職にふさわしい組織的研修活動
    - ア 使命感の確立・深化
    - イ 学校経営の諸問題の研修
  - (2) 近代的な学校経営についての研修  
(週5日制に関する研究を含む)
  - (3) 関博大会の研究主題の研修
2. 教職員の人材確保対策の推進
  - (1) 教員養成制度の改善ならびに専門職にふさわしい給与体系の確立
  - (2) 教職員の待遇ならびに勤務条件の改善
  - (3) 教職員の適正配置
3. 義務教育尊重の気風の高揚
  - (1) 教職員の勤務意欲の高揚
  - (2) 教育諸条件の整備(教育予算の増額と教材

教員の近代化を含む)

- (3) 現行標準法の改善のための運動
- (4) 県単職員の増員
4. 生徒の福祉条件の充実促進
  - (1) 健全な校外活動推進のための施設・設備の拡充
  - (2) 生徒の体育活動充実のための補助金の増額
  - (3) 交通安全施策の改善充実
  - (4) 望ましい家庭教育の普及ならびにPTAとの協力
5. 公立高等学校増設の推進と入試制度の研究
6. 教育会館移転建設の促進

#### 本会運営について

1. 県中学校長会総会(一条中学校) 5月11日(土)
2. 理事会・協議員会
 

理事会	4月16日(火)
協議員会	4月23日(火)
定期総会	5月11日(土)
理事会・合同専門部会	6月4日(火)
理事会	10月1日(火)
協議員会	10月1日(火)
理事会	1月17・18日
協議員会	(金) (土)
理事会	3月1日(火)
3. 各専門部会
4. 全日本中学校長会総会(東京) 5月24日~25日  
(金) (土)
5. 全日中役員研修会(東京) 7月29日~31日  
(月) (水)
6. 第26回関東甲信越地区中学校長研究協議会神奈川大会  
6月19日~21日  
(水) (金)
7. 全日本中学校長会富山大会 10月17日~18日  
(木) (金)
8. 義務教育振興大会

昭和48年度会務報告

期 日	場 所	会 議 名	要 項	参 加 者
48.4.14 (土)	宇 旭中	理 事 会	・新年度活動方針、計画 ・47年度決算、48年度予算 ・定期総会準備、計画 ・全日中総会、関プロ出席者確認等	理 事 21名
48.4.24 (火)	宇 旭中	協 議 員 会	・新年度活動方針、計画等 ・47年度決算、48年度予算案 ・定期総会準備、計画 ・永年勤続者表彰について ・全日中総会、関プロ出席者確認等 ・規約改正案	理事、協議員 49名
48.5.12 (土)	宇 一条中	定 期 総 会	・永年勤続者表彰 ・47年度事業、決算報告 ・規約改正 ・新役員選出 ・48年度事業計画、予算案 ・関プロ担当議題の発表	全 会 員
48.5.23 (水)	東京 国 立 教育会館	第 2 4 回 全 日 中 総 会	・京都大会研究題について ・48年度の運営活動方針等の協議 ・47年度決算、48年度予算案	代議員4名 オブザーバー 99名
48.6.5 (火)	宇 一条中	理 事 会 専 門 部 会 合 同 会	・重点目標の推進について ・専門部事業計画 ・関プロ千葉大会、全日中京都大会参加について ・栃木県小・中学校長会慶弔会の運営について	理事、専門部員 64名
48.6.20 (水)	宇 一条中	( 緊 急 ) 理 事 会	・全日中、関プロ中学校長会理事会報告 ・人確法の制定促進について	理 事 16名
48.6.13 (水) 48.6.15(金)	銚子市	関プロ中学校 長研究協議会	・会務報告、予算、決算、各県状況報告 ・学校制度からみた中学校の位置づけ』第9 分科会	50名

期 日	場 所	会 議 名	要 項	参 加 者
48.10.2 (火)	宇 一条中	理 事 会	・関プロ千葉大会、関プロ神奈川大会分担について ・義務教育振興大会について ・全日中京都大会参加確認 ・栃木市皆川小学校火災見舞について ・教育会館移転に関する件 ・人確法の通過促進について	理 事 21名
48.10.1(火)	宇 一条中	協 議 員 会	・専門部会報告 以下同上	理事、協議員 70名
48.12.12 (水)	宇 栃木会館 大ホール	栃木県義務教 育振興大会	・パネルディスカッション、大会宣言等 ・講演 千葉 康則氏	会員全員参加
48.10.29(月) 48.10.31(水)	京都市	全 日 中 京 都 大 会	・「人間尊重を基盤とする中学校教育の実 践」ほか8分科会 ・全体協議会	35名
48.1.30 (金) 48.2.1 (土)	塩原町	理 事 会	・全日中京都大会報告 ・各部活動状況報告 ・関プロ神奈川大会について ・義務教育振興大会について ・理事会、協議員会のもち方について	理 事 25名
49.1.19 (土) 49.1.20 (日)	藤原町	協 議 員 会	・全日中京都大会報告 ・各部活動状況報告 ・義務教育振興大会報告 ・関プロ神奈川大会について ・理事会、協議員会のもち方について ・49年度の本会の運営について	理事、協議員 35名
49.3.12 (火)	宇 一条中	理 事 会	・関プロ神奈川大会について ・49年度の運営について ・49年度全日中活動方針について ・本会の事業報告、会議計画 ・人確法成立後の対策について	理 事 29名

## 昭和48年度専門部活動

### 1 調査部

#### 1. 調査部会

昭和48.6.5 於 宇一条中

昭和48.10.16 於 宇一条中

昭和48.2.6 文書により昭和48年度の反省と昭和49年度活動について

#### 2. 活動状況

全日中調査部の調査に協力し、本県教育の実態を明らかにするとともに、県中本部ならびに各部の活動に対し資料を提供した。

#### 3. 調査内容

##### 1. 昭和48.4.21 全日中調査

- ・都道府県教育予算について(48年度)
- ・教員平均給、初任給 ・公立中学校学級別職員定数(養護、生徒指導、司書、事務職員配当状況) ・教員の旅費(1人当り)
- ・中学校学校数・学級数・生徒数・教員数の増減
- ・公立学校長退職について ・宿日直制度廃止について ・高校入試制度について

##### 2. 昭和48.7.30 全日中調査

- ・教員の資質向上について(研修状況)
- ・適当持時数、担当教科、免許外教科等
- ・教員および校長の待遇についての調査
- ・教育課程に関する調査 ・へき地の学校教育に関する調査 ・公立学校長年齢別人数
- ・校長、教頭選抜制度について ・小・中高教員需給状況について ・学校給食状況
- ・木造、鉄筋校舎、体育館、プールの状況
- ・特殊学級について ・小、中学校教員に対する県教委の異動方針

##### 3. 昭和48.1.1

- ・学校5日制に関する調査 全日中調査

##### 4. 昭和48.6.30

北海道小、中学校長より ・教職員の給料ならびに旅費について調査依頼があり、資料を提供した。

(付記) 資料収集にあたって、栃木県教委、

栃管協のご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。(部長)

### 2 研修部

昭和48.4.24 宇一条中

研修部活動組織決定。本会の重点目標

#### 1. 会員の研修活動推進達成を旨とし、

(1) 教育課程完全実施に伴う諸問題(県北・芳賀)

(2) 学校経営の近代化(県南)及び関プロ千葉大会の研究テーマ「人間尊重の理念にたつ中学校教育の組織および内容の問題点とその改善」

を中心課題とし、各地区はそれぞれの9分科会のテーマを分担して、研究活動を進めることとした。

5月～12月

各地区校長会は、それぞれの組織の中で、自主的に組織的計画的に調査研究、視察等を実施

6月13日～14日 関プロ千葉大会

会員多数参加。特に第6分科会には、司会大木義男校長、提案者小竹正美校長の活躍があった。

10月16日 宇一条中 研修部会

研究テーマの分担確認と各地区研究活動情報交換。本年度版研究集録刊行について協議

12月28日～1月21日

研究集録の原稿整理、編集。印刷所に送付。

3月12日

各地区理事を通じて、各会員に研究集録を配付。

### 3 編集部

編集部の本年度の事業は大きく次の2つであった。

#### 1. 校長会会報の拡充

#### 2. 全日中編集部への積極的な協力活動

1の校長会報の拡充については、12日、本年度第2回の広報として会員各位に会報をお届けすることができた。会長さんはじめ、理事・協議員

の方々、編集委員の各位に心から感謝の意を表したい。従来は年度頭初の総会において、主として会の基本方針やその他事務的なことを内容として編集したものが1回会員の手に届けられる程度であった。零細な校長会の財政からはやむを得ないことであった。しかし今年はお蔭さまで第2回の発刊についても予算的な配慮がいただけて、校長会だよりとか、各部活動の状況などを含め会の動静を会員各位に伝えることができたのである。ささやかではあったが、一応画期的でもあったと自負している。世は文字どおり情報化の時代。迅速、正確に校長会の日常活動が機関紙をとおしてもっと多く伝えられるようにしたいものである。次年度は願わくはもう一回くらい発刊したいと念願する。

第2回全日中編集活動への協力については、毎月1回上京し、機関誌「中学校」の編集に当たった。「中学校」の編集委員は栃木県を除き、全員東京の校長であり、よく勉強をしている。しかし地方からの編集委員の存在はたいへん貴重がられ原稿依頼などにおいても、今年度の栃木県はたいへんな活躍振りであった。すでにご承知のように栃木西中の白井校長が「創意ある学校経営」を、また宇都宮星が丘中の鈴木校長が「栃木県のスポーツ少年団活動について」を掲載し好評を博したのであった。その他書評などの欄を分担して書くなど、全日中編集部への協力活動も、本校長会編集部にとって重要な事業の一つであったといえよう。

### 4 職員対策部

I 6月5日一条中学校において専門部会を開き本年度の部長、副部長を選出、年間計画を設定した。主なる事項は次の通りである。

#### 1. 部長 鈴木 信(宇、星が丘中)

副部長 藤掛良一(安佐、田沼西中)

大貫順作(塩、矢板中)

#### 2. 年間計画

給与 人事対策(中央、栃管協と連絡提携を密にしている。

II 6月21日星が丘中学校において活動内容について協議。概要次の通り。

1. 人権法成立のための運動に参加推進
2. 退職年令の状況調査
3. 教員の配当基準(養護、事務職員、生徒指導主事を含む)
4. 市町村費負担職員の状況
5. 県担教員増員のための資料作成
6. 校長給与是正(退職時の優遇を考慮して)
7. 旅費、図書費の高校との格差是正

III 6月12日、全日中本部における給与対策部会に藤掛副部長出席。人権法を成立させるための活動について協議。

IV 11月17日、星が丘中学校において、職員対策部会を開催。本部との連絡状況、人権法を成立させるための活動についての情報を交換。本部会の活動事項について資料を提出し検討したい。更に新たに本県中学校教員の通勤手当について情報交換、協議の結果、本件に対する資料の収集を行なうこととし、その様式、調査法等について検討、実施することとした。

V 本県下中学校の教員の通勤手当について、全中学校教員を対照として調査、資料の収集を整理した。回収率78%。内容については部会により再検討。会長の資料として提出する予定である。

### 5 進路対策部

昭和48年度第1回部会の計画に基づき、当面の問題である高校入試に関する問題点の調査を、昭和49年2月実施、2月25日に集計完了。その概要は次のようであった。

#### 1. 公立高校学力検査教科では

- (1) 5教科がよい。 99校(60.0%)
- (2) 3教科がよい。 53校(32.1%)
- (3) 2教科がよい。 5校(3.0%)
- (4) 2～3教科に学科別の選択教科 6校(3.6%)
- (5) 2～3教科に生徒の選択による教科を 2校(1.2%)

## 2. 推薦入学について

### (1) 賛成 79校 (48.8%)

(主な理由)

- ・長期の観察、本人の個性能力が反映できるから
- ・クラブ、生徒会、部活動など3年生が遅くまで可能だから、等。

### (2) 不賛成 83校 (51.2%)

(主な理由)

- ・ねらいはよいが基準が問題
- ・趣旨はよいが方法が問題
- ・教師と父母とのトラブルが心配
- ・生徒が勉強しなくなる等

## 3. 入試の期日は

- (1) 現状でよい 116校(73.4%)
- (2) もっと早く 24校(15.2%)
- (3) もっと遅く 18校(11.4%)

## 4. 調査書についての意見(主なもの)

- ・スポーツテスト記入不要 ・実技テストをやれ
- ・特活とくにクラブ、部活動の評定方法にくふうを
- ・群馬、茨城、福島等と評定一覧表の基準を同一にされたい
- ・行動の記録の評定は問題
- ・1年の学習記録不要等

## 5. 職業関係高校からの国立大学進学を改善すること(今よりはいいりする)

- 賛成153校(95.6%) 不賛成7校(4.4%)
- ・現状、中学校の時点では将来の進路決定困難なものもある
- ・教育の機会均等のために
- ・ただし実業校の独自性を失うことなく等。

## 6. 高校増設、設置学科等では

- 圧倒的に普通科高校の増設が多い。加えて看護科、体育科、音楽科、芸術科、商業科、工業デザイン科、電気科等。

## 7. 進路指導主事について

- まだ就職あっせん係にされている学校あり、
- 学校長の理解認識をより正しく、進路指導主事の担当時数を軽減させよ等。

## 8. 進路指導の振興充実策について

- ・学級指導における進路指導の充実を
- ・教師と生徒との信頼関係の確立を
- ・個性、特性の

発見に全力を ・観察指導の徹底を ・学校長が進路指導の本質を理解すべき ・父母の啓発を

・教科時間を減少させても進路指導に特設時間を ・適切な情報資料がほしい。 ・1～2年段階の進路指導の充実を ・中高の連携を強化して ・進路相談の充実を ・全校指導体制確立を等。

## 9. 特殊学級卒業生で入学できるふさわしい高校の設置

- ・賛成111校(73%) 不賛成41校(27%)

以上のような意見を土台に今後、根本問題と当面の問題について具体化することになった。

## 6. 修学旅行部

### 1. 6月第1回役員会、部会の年間予定と関東地区修学旅行委員会等の問題を検討

### 2. 7月修学旅行部会総会。事業報告、予算決算等を検討、承認するとともに役員決定をみる

### 3. 関東修学旅行会に再三出席。出席ごとに本県の修学旅行について意見をのべる。

### 4. 来年度の修学旅行について本年度あった問題から反省して、国鉄本社に対して要望と陳情を再三にわたってする。

### 5. 10月第2回役員会。来年度(49年度)の修学旅行について、時間および座席の検討と実施日の確認等をする。

### 6. 1月役員会開催。49年度、50年度の修学旅行について話し合いをする。

### 7. 1月水戸市において関東地区修学旅行研究会発表会がおこなわれ、望ましい修学旅行の運営実践について修学旅行の意義と目的についての研究発表がなされ、各県から出席して検討を

する。

## 8. 役員会の要望により、国鉄本社ならびに関東地区修学旅行委員会に再度陳情と要望した結果は次のとおりとなる。

### ◎ 昭和49年度

春季 6月8日～7月8日

夏季 9月10日～9月28日

※新幹線 東京発 10時5分

京都発 13時29分

### ◎ 昭和50年度

栃木県の要望が入り4月から割当になりましたので後日、役員会を開催いたし、割当等については検討、報告をしたいと思う。

## 7. 福利厚生部

昭和48年度部会の活動は次のとおりです。

### 1. 6月5日第1回部会を開催、部長、副部長を選出し、本年度の事業について協議、決定する

### 2. 8月17日、鬼怒川において、生徒手帳の編集と前高橋会長の送別の部会を開催

### 3. 11月19日、一条中学校において、交通安全副読本の編集のための部会を開催。上両会議について栃木県校長会の名において栃木県版として発行される。

### 4. 道徳副読本(文教社)については、県道徳部会長等が編集に当り、栃木県版として発行されるものについてあつせんする。

生徒手帳・交通安全・道徳等副読本とも発行者は、栃木県中学校長会が当たっているので多数ご採用をお願いして部会の報告と致します。

## 8. 教職観研究部

4月14日 県中学校長会理事会において、教職

観調査研究資料の続編を刊行することが決定された。

6月5日 専門部会で部長・副部長を互選し資料を収集することを決める。

10月16日、11月21日、12月17日

会合を重ね、

①教師の資質について

②道義の高揚をめざして

③望ましい教師像

の3点についてのアンケート調査の結果を考察する。

2月5日 県教育研修センターの船田先生の適切な指導を頂いて編集の基本方針がまとまり執筆にとりかかる。

2月28日 原稿がまとまり、編集を完了する。

前回刊行された第1集と併せて教職員の指導に役立たせていただきたい。

昭和48年度栃木県中学校長会会計決算書

1 収 入	1,330,838円
2 支 出	1,257,923円
3 差 引 残	72,715円

収 入 内 訳

項 目	予 算 額	収 入 額	比 較		摘 要
			増	減	
I 会 費	1,043,100	1,043,100			6100円×171校
II 繰越金	41,089	41,089			
III 雑収入	200,000	246,449	46,449		利子その他
計	1,284,189	1,330,638	46,449		

支 出 内 訳

項 目	予 算 額	支 出 額	比 較		摘 要
			増	減	
I 会 議 費	115,000	111,195		3,805	総会補助 理事、協議会等
1 総会費	30,000	30,000			
2 会議費	85,000	81,195		3,805	
II 事務局費	566,960	572,542	5,582		通信 消耗品
1 事務費	85,000	49,058		35,942	
2 事務局員手当	421,960	450,384	28,424		
3 旅 費	60,000	73,100	13,100		
III 事業費	196,000	174,086		21,914	研究紀要 @8000×8
1 研修費	16,000	9,946		6,054	
2 刊行費	116,000	98,000		18,000	
3 専門部会費	64,000	66,140	2,140		
IV 分担金	359,100	359,100			@1,800円×171 @ 300円×171
1 全日中分担金	307,800	307,800			
2 関係プロ分担金	51,300	51,300			
V 積立金	25,000	25,000			
1 積立費	25,000	25,000			
VI 雑 費	15,000	16,000	1,000		広告料、燃料その他
1 雑 費	15,000	16,000	1,000		
VII 予備費	7,129	0		7,129	
1 予備費	7,129	0		7,129	
合 計	1,284,189	1,257,923	44,664	70,930	比較26266減

差引残72,715円は次年度へ繰越します。

上記のとおり決算報告いたします。

昭和49年3月31日

監査報告 栃木県中学校長会昭和48年度分会計監査の結果、証憑書類諸帳簿等正確に処理されていることを確認いたします。

昭和49年4月5日

栃木県中学校長会長 戸田 博彦

事務局長 浜野 正重

会計部長 小川 禎三

監査 豊田 和夫 ㊟

中村 治夫 ㊟

佐藤 善平 ㊟

昭和49年度栃木県中学校長会会計予算書(案)

1 収 入	1,760,415円
2 支 出	1,760,415円
3 残 高	0円

収 入 内 訳

項 目	49年度予算額	48年度予算額	比 較		摘 要
			増	減	
I 会 費	1,487,700	1,043,100	444,600		8700×171
II 繰越金	72,715	41,000	31,626		
III 雑収入	200,000	200,000	0		利子・その他
計	1,760,415	1,284,189	476,226		

支 出 内 訳

項 目	49年度予算額	48年度予算額	比 較		摘 要
			増	減	
I 会 議 費	120,000	115,000	5,000		総会・補助 理事・協議会等
1 総会費	30,000	30,000			
2 会議費	90,000	85,000	5,000		
II 事務局費	736,000	566,960	169,040		通信 消耗品
1 事務費	100,000	85,000	15,000		
2 事務局員手当	506,000	421,960	84,040		
3 旅 費	130,000	60,000	70,000		
III 事業費	455,000	196,000	259,000		教職観刊行を含む @15000×7 大会準備金
1 研修費	70,000	16,000	54,000		
2 刊行費	200,000	116,000	84,000		
3 専門部会費	105,000	64,000	41,000		
4 関係プロ栃木 大会準備	80,000	0	80,000		
IV 分担金	393,300	359,100	34,200		@1,800×171 @ 500×171
1 全日中分担金	307,800	307,800			
2 関係プロ分担金	85,500	51,000	34,200		
V 積立金	25,000	25,000			
1 積立金	25,000	25,000			
VI 雑 費	15,000	15,000			広告 燃料費等
1 雑 費	15,000	15,000			
VII 予備費	16,115	7,129	8,986		
1 予備費	16,115	7,129	8,986		
合 計	1,760,415	1,284,189	476,226		

昭和49年4月1日

栃木県中学校長会

栃木県中学校長会退会者

◎ 退職によるもの(9名)

1. 河 又 英 一 宇 泉が丘中
2. 平 野 辰 三 芳 真岡中
3. 塩 田 一 雄 芳 芳賀中
4. 小 杉 英 一 下 太平中
5. 入 江 清 吾 塩 氏家中
6. 鮎 瀬 浩次郎 那北 伊王野中
7. 岡 崎 清 那南 荒川中
8. 戸賀崎 猛 佐野 城東中
9. 堀 江 正太郎 足利 富田中

◎ 転出によるもの(小学校へ)(10名)

1. 八木沢 旺 二 上 小林中
2. 野 田 宏 上 川俣中
3. 小 森 鎮 男 芳 七井中
4. 杉 山 正 五 芳 田野中
5. 田 村 清 作 小山 大谷中
6. 塩 野 敏 塩 大宮中
7. 松 本 稔 那北 大島中
8. 村 上 源太郎 那北 三島中
9. 山 本 浩 足利 愛宕台中
10. 新 井 健 之 足利 毛野中

栃木県中学校長会永年勤続表彰者

5年勤続(16名)

1. 陽南中 小 池 元 正
2. 雀宮中 伊 藤 守
3. 南河内中 塚 原 茂
4. 南押原中 杉 江 秀 清
5. 粕尾中 大 出 美喜雄
6. 大内中 荒 井 光 三
7. 長沼中 大根田 薫
8. 小野寺中 猪 野 富 夫
9. 箒根中 人 見 芳 正
10. 大宮中 飯 野 寿太郎
11. 喜連川中 森 永 信 雄
12. 須賀川中 祁答院 信 雄
13. 両郷中 荒 井 茂 樹
14. 大島中 手 塚 賢次郎
15. 那須中 郡 司 正 明
16. 北郷中 増 田 英 一

10年勤続(13名)

1. 上三川中 上 野 逸 郎
2. 益子中 豊 田 和 夫
3. 物部中 綱 川 水 雄
4. 東陽中 荒 井 力
5. 桑 中 中 野 滋
6. 壬生中 荒 川 正 一
7. 藤岡一中 平 野 英 男
8. 石橋中 君 島 光 夫
9. 三島中 室 井 古 穂
10. 芦野中 渋 井 敏 郎
11. 佐久山中 金 森 俊 男
12. 山辺中 中 村 治 夫
13. 足利二中 大 滝 徳 海

栃木県中学校長会員名簿 (昭和49年度)  
(◎理事 ○協議員)

宇都宮地区(18)

- ◎一条中 戸 田 博 亘
- 陽北中 廻 谷 三 郎
- 旭 中 篠 原 俊 雄
- 陽南中 小 池 元 正
- 陽西中 浜 野 正 重
- 星が丘中 鈴 木 信
- 陽東中 野 沢 平 吉
- 泉が丘中 小 川 禎 三
- 宮の原中 草 島 尚 介
- 酒原中 上 野 政 司
- 横川中 巻 島 武 男
- 瑞穂野中 高 柳 久
- 豊郷中 赤 石 沢 一 明
- 国本中 増 淵 重 雄
- 城山中 高 藤 常 松
- 晃陽中 渡 辺 大 三 郎
- 姿川中 小 林 茂
- 雀宮中 伊 藤 守

河内地区(7)

- ◎古里中 大 谷 晃 一
- 南河内中 塚 原 茂
- 田原中 金 田 善 楼
- 上三川中 上 野 逸 郎
- 本郷中 荒 川 正 男
- 明治中 山 崎 勝 二
- 上河内中 増 淵 益 三

上都賀地区(33)

- 鹿沼東中 愛 波 正 雄
- ◎ “西中 坂 入 安三郎

○鹿沼北中 石 川 富 寿

- 北犬飼中 木 村 光 明
- 北押原中 平 沢 勉
- 加蘇中 齋 藤 邦 彦
- 板荷中 宮 沢 正 夫
- 南摩中 阿 部 泰 昌
- 南押原中 杉 江 秀 清
- 西万中 渡 辺 太 一
- 粟野中 田 村 政 夫
- 清州中 谷 中 嘉 雄
- 永野中 茅 島 治 男
- 粕尾中 大 出 美喜雄
- 上粕尾中 神 山 弘
- 今市中 松 本 順
- 落合中 沼 尾 省 治
- 豊岡中 沼 尾 陸
- 大沢中 大 房 仁
- 小林中 大 橋 正 道
- 日光中 星 野 聰 郎
- 中宮祠中 福 田 良比古
- 日光東中 栗 原 光 男
- 小来川中 弓 手 弘 二
- 藤原中 野 沢 芳 雄
- 川治中 木 村 光 男
- 三依中 阿 部 五 平
- 横川中 川 田 孝 治
- 粟山中 酒 井 登
- 日向中 関 口 善 勝
- 湯西川中 岡 安 宏
- 西川中 赤 羽 根 雄 太
- 川俣中 大 嶋 裕

○芳賀地区(16)

- 真岡中 菅 谷 重 夫
- 大内中 荒 井 光 三
- 山前中 横 田 正 一
- 中村中 榎 戸 隆 夫
- 長沼中 大根田 薫
- 久下田中 仲 島 信 一
- 物部中 綱 川 水 雄
- 田野中 大 山 進
- 益子中 豊 田 和 夫
- 七井中 橋 本 久 郎
- 道川中 岡 井 勝 位
- ◎茂木中 岩 崎 正三郎
- 中川中 関 興
- 須藤中 永 嶋 光 男
- 市員中 秋 山 武
- 芳賀中 築 竹 治

栃木地区(7)

- ◎栃木南中 飯 塚 仁 一
- “西中 森 田 守 一
- “東中 白 井 弘 典
- 東陽中 荒 井 力
- 香川中 米 山 滋 夫
- 吹上中 大 木 義 雄
- 寺尾中 橋 川 均

小山地区(8)

- ◎小山中 星 野 卯 養
- 小山第二中 長 浜 精
- 大谷中 筑 後 清 寿
- 間々田中 館 野 竹 男

豊田中 山中 福一  
 美田中 藤井 青史  
 ○桑中 中野 滋  
 絹中 大貫 昇  
 下都賀地区(13)  
 都賀中 平岡 芳太郎  
 ◎壬生中 荒川 正一  
 稲葉中 福田 幸郷  
 南犬飼中 川島 平八郎  
 ○石橋中 君島 光夫  
 ○國分寺中 金田 正三  
 野木中 飯田 弘  
 大平中 鈴木 忠一  
 静和中 江口 栄一  
 岩舟中 新井 次郎  
 小野寺中 猪野 富夫  
 ○藤岡一中 平野 英男  
 " 二中 徳田 代吉  
 塩谷地区(14)  
 ○矢板中 大貫 順作  
 泉中 五月女 正男  
 新高原中 手塚 昌邦  
 片岡中 兼崎 才助  
 常根中 人見 芳正  
 塩原中 菊池 武夫  
 船生中 和気 正夫  
 玉生中 太田 友一  
 大宮中 飯島 寿太郎  
 ◎氏家中 塚原 公可  
 ○阿久津中 小池 秀夫  
 北高根沢中 菅又 隆典  
 ○喜連川中 森 永 信雄

上江川中 津浦 敏彦  
 那北地区(23)  
 ○大田原中 植竹 幸重  
 頼岡中 増淵 五郎  
 金田北中 船山 三男  
 " 南中 菊地 玄  
 野崎中 佐藤 政二  
 佐久山中 金森 俊男  
 ○湯津上中 吉成 不二雄  
 ○川西中 横山 一男  
 黒羽中 金沢 久南  
 須賀川中 羽谷院 信雄  
 両郷中 荒井 茂樹  
 伊王野中 近藤 恵仁  
 芦野中 洪井 敏郎  
 大島中 手塚 賢次郎  
 那須中 郡司 正明  
 高久中 池沢 栄次  
 ○黒田原中 興野 一郎  
 ◎黒磯中 大貫 一  
 ○鍋掛中 松本 和  
 東那須野中 平野 誠  
 高林中 桜岡 龍三  
 三島中 室井 古穂  
 ○西那須野中小 林 剛  
 那南地区(9)  
 ◎下江川中 佐藤 喜平  
 荒川中 清水 才治  
 境中 山口 正尚  
 ○烏山中 三尾谷 寛  
 七合中 大野 豊寿  
 馬頭中 星 博

大内中 青柳 勇進  
 大山田中 高野 末吉  
 ○小川中 豊田 与一郎  
 佐野地区(6)  
 北中 飯塚 栄四郎  
 城東中 小高 博  
 ○南中 鹿沼 隆重郎  
 ◎西中 刑部 正典  
 香宴中 岩崎 好男  
 赤見中 小竹 正美  
 安蘇地区(4)  
 葛生中 村楳 清三郎  
 常盤中 神山 邦夫  
 ◎田沼東中 柿沼 政一  
 " 西中 藤掛 良一  
 足利地区(12)  
 第一中 大和田 豊  
 ◎第二中 大滝 徳海  
 第三中 阿部 理  
 毛野中 長谷川 賢三  
 ○山辺中 中村 治夫  
 ○西中 須藤 裕  
 北郷中 増田 英一  
 名草中 塩田 富吉  
 富田中 尾花 悟  
 ○協和中 国井 末子男  
 愛宕台中 蓮沼 恆八  
 坂西中 大嶋 広雄  
 足尾地区(1)  
 ◎足尾中 谷口 寅次郎

専門部員

調査部

瑞穂野中(字) 高柳 久  
 南河内中(河) 塚原 茂  
 粟野中(上) 田村 政夫  
 久下田中(芳) 仲島 信一  
 栃木西中(栃) 森田 守一  
 間々田中(小) 館野 竹男  
 岩舟中(下) 新井 次郎  
 北高根沢中(塩) 菅又 隆典  
 大島中(那北) 手塚 賢次郎  
 大内中(那南) 青柳 勇進  
 城東中(佐) 小高 博  
 愛宕台中(足) 蓮沼 恆八

研修部

陽原中(字) 廻谷 三郎  
 上河内中(河) 増淵 益三  
 藤原中(上) 野沢 芳雄  
 市貝中(芳) 秋山 武典  
 栃木東中(栃) 白井 弘典  
 小山第二中(小) 長浜 精  
 南犬飼中(下) 川島 平八郎  
 片岡中(塩) 兼崎 才助  
 金田南中(那北) 菊地 玄  
 馬頭中(那南) 星 博  
 赤見中(佐) 小竹 正美  
 葛生中(安) 村楳 清三郎  
 毛野中(足) 長谷川 願三

編集部

城山中(字) 高藤 常松  
 田原中(河) 金田 悟楼

鹿沼東中(上) 愛波 正雄  
 逆川中(芳) 町井 勝位  
 東陽中(栃) 荒井 力  
 絹中(小) 大貫 昇  
 玉生中(塩) 太田 友一  
 芦野中(那北) 洪井 敏郎  
 七合中(那南) 大野 豊寿  
 佐野南中(佐) 鹿沼 隆重郎  
 協和中(足) 国井 末子男

職員対策部

星が丘中(字) 鈴木 信  
 古里中(河) 大谷 晃一  
 西方中(上) 渡辺 太一  
 中村中(芳) 榎戸 隆夫  
 皆川中(栃) 米山 滋夫  
 豊田中(小) 山中 福一  
 藤岡第二中(下) 徳田 代吉  
 塩原中(塩) 菊地 武  
 野崎中(那北) 佐藤 政二  
 荒川中(那南) 清水 才治  
 佐野西中(佐) 刑部 正典  
 田沼西中(安) 藤掛 良一  
 山辺中(足) 中村 治夫

修学旅行部

雀宮中(字) 伊藤 守  
 明治中(河) 山崎 勝二  
 日光東中(上) 栗原 光男  
 真岡中(芳) 菅谷 重夫  
 吹山中(栃) 大木 義雄  
 美田中(小) 碓井 青史

小野寺中 (下) 猪野 富夫  
 船生中 (塩) 和氣 政夫  
 黒羽中 (那北) 金沢 久衛  
 境中 (那南) 山口 正尚  
 佐野南中 (佐) 鹿沼 隆重郎  
 常盤中 (安) 神山 邦夫  
 足利西中 (足) 須藤 裕

福利厚生部

陽南中 (宇) 小池 元正  
 上三川中 (河) 上野 逸郎  
 西川中 (上) 赤羽根 雄太  
 中川中 (芳) 関 興  
 寺尾中 (栃) 橘川 均  
 桑中 (小) 中野 滋  
 静和中 (下) 江口 栄一  
 上江川中 (塩) 津浦 敏恵  
 高林中 (那北) 桜岡 龍三

大山田中 (那南) 高野 末吉  
 佐野北中 (佐) 飯塚 栄次郎  
 足利第三中 (足) 阿部 理

進路対策部

旭中 (宇) 篠原 俊雄  
 本郷中 (河) 荒川 正男  
 鹿沼北中 (上) 石川 富寿  
 山前中 (芳) 横田 正一  
 栃木南中 (栃) 飯塚 仁一  
 大谷中 (小) 筑後 清寿  
 稲葉中 (下) 福田 幸郷  
 箒根中 (塩) 人見 芳正  
 三島中 (那北) 室井 古穂  
 烏山中 (那南) 三尾谷 寛  
 赤見中 (佐) 小竹 正美  
 田沼東中 (安) 柿沼 政一  
 坂西中 (足) 大嶋 広雄

栃木県中学校長会規約

第1章 名称及事務所  
 第1条 本会は、栃木県中学校長会と称する。  
 第2条 本会は、事務所を会長の指定するところにおく。  
 第2章 目的及事業  
 第3条 本会は、中学校教育の振興を図ることを目的とする。  
 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。  
 1. 中学校教育の調査研究  
 2. 教育振興に関する運動  
 3. その他、必要なる事項  
 第3章 組織  
 第5条 本会は県下中学校長をも

って組織する。  
 第4章 役員  
 第6条 本会に左の役員を置く。  
 会長 1名  
 副会長 4名  
 理事 若干名  
 協議員 若干名  
 監事 3名  
 第7条 前条の役員の任務は、左の通りとする。  
 1. 会長は、本会を代表して会務を統括する。  
 2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。  
 3. 理事は、理事会協議会に出

席し会務の運営にあたる。  
 1. 協議員は、協議会に出席し会務を審議する。  
 2. 監事は会計事務の監査にあたる。  
 第8条 役員は、左の方法で選出する。  
 1. 会長、副会長、監事は、協議員会で推薦し総会で承認する。  
 2. 理事は、各郡市中学校長会長及び事務局長、事務局各部長、各専門部長をあてる。  
 3. 協議員は、四校につき1名の割合で各郡市中学校長会が互選する。

第9条 役員の任期は1か年とし再任を妨げない。但し補欠役員の任期はその残任期間とする。

第5章 会議

第10条 本会の会議は、左の通りとし会長が招集する。

1. 総会(定期総会は毎年5月に行なう。)

1. 協議員会

1. 理事会

第11条 前条会議の任務は、左の通りとする。

1. 総会は、本会の最高決議機関で事業計画、予算決算その他重要事項を議決する。

2. 協議員会は、総会に次ぐ決議機関で必要事項について審議する。

3. 理事会は、総会、協議員会で決議された方針に従い会務を執行する。

第12条 すべての会議は定員の過半数で成立し、議決は出席者の多数決による。

第6章 事務局・専門部

第13条 本会は第4条の事業を行なうため左の事務局・専門部を置く。

1. 事務局に庶務・会計部を置く。

2. 専門部は調査・研修・編集・職員対策・進路対策・修学旅行・福利厚生とする。

第14条 事務局には局員、部には部員若干名を置き、左の方法で選出する。

1. 事務局員は、会長の委嘱による。

2. 編集部は、各部の代表をあてる。

3. その他の部は、理事会にかり会長がこれを委嘱する。

第15条 事務局には局長、次長各部員を、専門部には部員の互選により正副部長を置く。

第7章 会計

第16条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって当てる。

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

付 則

第18条 規約の改正は、総会の決議により運営に必要な細則は協議員会で定める。

第19条 本規約は、本会が設立された昭和20年12月12日から施行する。

昭和38年5月4日改正

昭和43年5月 日改正

昭和44年5月 日改正

昭和48年5月12日改正

栃木県小中学校長慶弔会規定

第1条 この会は栃木県小中学校長慶弔会といい、事務所を会長所在の学校に置く。

第2条 この会は栃木県小学校長会会員、栃木県中学校長会会員をもって組織する。

第3条 この会は一定の会費によって、会員相互の共栄互助をはかることを目的とする。

第4条 この会の目的を達成するため次のことを行う。

1. 会員が退会したときは会費金10,000円を贈る。

2. 会員が死亡したときは弔慰金10,000円と花輪1基(時価相等)を贈る。

3. 会員が1か月以上に亘る傷病休暇の場合は見舞金5,000円を贈る。

4. 会員の配偶者が死亡した場合は弔慰金10,000円を贈る。

5. 会員の永年勤続者の表彰を行う。(表彰内規は別に定める)

6. 県以上の表彰を受けた場合には記念品(3,000円程度)を贈る。

7. その他必要ある場合は協議の上措置する。

第5条 この会に次の役員をおく。役員は任期は1か年とする。

1. 会長 1名

2. 副会長 1名

3. 理事 若干名  
 4. 評議員 若干名  
 5. 庶務・会計 4名  
 6. 会計監査 4名

第6条 会費は会員1人当り2,000円とする。

第7条 会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8条 この規定の改正は評議員会によって議定し、各校長会の承認を得るものとする。

第9条 この会の運営は次のとおり定める。

1. 会務は小中学校1年交替であたる。

2. 会長、副会長は、小中学校長会長が1年交替で



- あたる。
3. 理事は、小中学校校長会の理事があたる。
  4. 評議員は小学校校長会の評議員と中学校校長会の協議員があたる。
  5. 庶務会計は、会務担当の校長会より選出する。
  6. 会計監査は、小中学校校長会の監査員があたる。

付 則

1. この規定は昭和38年1月1日より施行する。
  2. 昭和41年4月1日一部改正
  3. 昭和48年4月1日一部改正
- 第4条表彰内規
1. 勤続5年、10年、15年、20年、25年目に達

した場合

2. 小中校の勤続は通算する。
3. 会員から教育関係の他の職に転じた場合の期間は通算し、会員に復した後に表彰する。
4. 記念品代は当分の間1,500円程度とする。
5. 表彰状・筒は各小中学校校長会で負担する。

関プロ中学校長研究協議会協議題（神奈川）

昭和49年6月19日～21日

(1) 全体会

「豊かな人間」の育成に視点を置いた中学校教育の現状とその改善試案の策定。

——— 中学校教育の役割と現行学制の再検討 ———

(2) 分科会

分科会	協 議 題
第1分科会	「豊かな人間」の育成を旨とした学校教育計画はどうあればよいか。
第2分科会	4年制中学校の教育構造はどうあればよいか。 ——— 現行学制に対する再検討の視点に立って ———
第3分科会	「豊かな人間」の育成のための学校環境、施設、設備はどうあればよいか。
第4分科会	教職員の勤務時間ならびに、教職員定数の実態とその対策
第5分科会	専門職としての教師の研修ならびにその制度はどうあればよいか。
第6分科会	学校五日制にかかわる諸問題と今後とるべき方向について。
第7分科会	変動する社会情勢に対応する進路指導およびその対策はどうあればよいか。
第8分科会	学校教育と社会教育の関連はどうあればよいか。 ——— 特に必修クラブ、部活動のあり方をめぐって ———
第9分科会	安全・公害に関する教育をどのように進めたらよいか。